（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平 成 ３０ 年 度　学 校 評 価 総 括 表　　（ 徳島県立徳島科学技術高等学校 ）

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	①　礼儀，責任，勤労，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，自主的自立的に行動できる人間を育成する。 ②　基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③　技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	①　進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の個性を伸ばす教育を展開する。 ②　工業・水産教育を核とした教育活動全体を通して，生徒個々が目的意識を持って，自ら主体的に学習することのできる人材の育成を図る。 ③　一定の成果指標を定めたマニフェストに基づき，具体的な取組を実践し，特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	テーマ **倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，意欲的に学び，社会の変化に主体的に対応する力を養う教育を推進し，ＳＳＨ継続への取組につなげる。**
	①　文武両道を実践し，何事にも自ら主体的に取り組む態度を養う。 ［主体的に取り組む姿勢の育成］ ②　社会的・職業的自立に必要な技術・技能・態度を身につけ，知識を活用し，変化に対応して，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。　［専門教育の推進］ ③　グローバルな視点をもって将来設計ができるよう，キャリア教育の推進に努める。 ［キャリア教育の充実］

年度総合評価

重 点 課 題	SSH 部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産教育 （高大連携） （ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）	工業・水産教育 （ｽｷﾙｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ） （資格） （コンテスト）	家庭・地域との連携
番　号	1，2	3，4，5	6，7，8	9，10，11，12	13，14，15，16	17，18，19	20	21	22	23，24	25	26	27，28，29
総 合 評 価	A	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	ＳＳＨ部 ①　ＳＳＨ事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	①　課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 （ＳＳＨ部・各類・コース）	①　年度末にＳＳＨ研究発表会を開催する。 ②　各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	①　各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を 11 テーマ以上とする。 ②　各種コンテスト等に参加し，入賞以上を目指す。	（評価指標による達成度） ①　ＳＳＨ研究発表会で，６テーマの口頭発表と８テーマのポスター発表を行った。 ②　科学の甲子園に参加し，優勝し，全国大会に出場する。 （活動計画の実施状況） ①　２月 26 日に実施。 ②　随時実施。	（達成度） A （所見） ①②　計画通りに実施できた。	①　各コース１テーマ以上発表をすることで，ＳＳＨに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。 ＡＯ入試において，プレゼンテーションの選抜方法により国立大学に合格した。 ②　発表会へ積極的に参加し，好成績を残した。	①　発表及び質疑応答を英語でできるようにしたい。 ②　参加人数及び入賞数をさらに増やす。 ③　プレゼンテーション等に関する講習会を実施する。
2		②　ＳＳＨの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 （ＳＳＨ部・各類・コース）	①　魅力あるＳＳＨ事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	①　「ＳＳＨの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70 %以上。	（評価指標による達成度） ①　１年生　66.8 % ２年生　70.4 % ３年生　73.4 % （活動計画の実施状況） ①　ＳＳＨ研究発表会後にアンケート調査を行った。	（達成度） A （所見） ①　目標値をほぼ達成できた。	①　ＳＳＨや理数科目への興味・関心が得られた。 課題研究等の探究活動の意識付けができた。	①　主体性をより引き出す授業を行う。 １年生にも理解できるような発表を心がける。 ＳＳＨ課題研究において教材等の成果をあげる必要がある。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
3	人権教育 ①　基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。	①　人権尊重の精神の涵養が図られるよう，学校の教育活動全体の中で，人権教育を推進する。 （進路部・人権教育課）	①　人権学習（ホームルーム活動・かぎまる人権 day）等において生徒の人権尊重の精神の涵養を図る。 ②　HR 年間計画で学習を予定している個別人権課題に対応した外部講師による人権教育講演会を各学年で実施する。	①　学校評価（生徒）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より 10 %アップ。 ②－１　外部講師による人権教育講演会を各学年で年１回以上実施する。 ②－２　人権教育講演会アンケートで人権問題について理解が深まりましたか？「大変深まった」・「概ね深まった」が 50%以上。	（評価指標による達成度） ①　昨年度 35 %　今年度 41 %「そう思う」であった。 ②－１　外部講師による人権講演会４回実施。 ②－２　５月 10 日講演会 36%，９月 27 日講演会 30%であった。 （活動計画の実施状況） ①　かぎまる人権 day には各学年の人権委員による挨拶運動を実施。 ②　１年１回，２年１回，３年２回の計４回の外部講師による人権教育講演会を実施。	（達成度） B （所見） 評価指標について，人権教育講演実施は達成したが，人権教育に積極的に取り組んでいるという点が達成できなかった。 活動計画については，概ね達成できた。	人権教育に積極的に取り組んでいる。（生徒）「そう思う」が，昨年より６%アップの 41 %であった。目標の 50 %に届かなかった。かぎまる人権 day での人権委員による挨拶運動の参加者の増加や，外部講師による人権教育講演会の実施等による結果だと考えられる。	かぎまる人権 day での人権委員による挨拶運動の継続と人権委員の人権意識の高揚を図ること。アンケートでの人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う。」を増やすために，人権ＨＲでのＩＣＴ教材の作成やその活用を，図っていきたい。
4		②　生徒一人一人の居場所があり，安心して過ごせる場所であると実感できるクラスや学校全体の雰囲気づくりを行う。 （進路部・人権教育課）	①　教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ，人権感覚を磨くための研修を充実する。 ②　かぎまる人権 day の日に人権委員による挨拶運動を実施し生徒の人権意識の高揚を図る。 ③　校外行事等（地域やあいぽーと徳島が主催する行事）を案内する。 ④　人権意識調査，インターネット意識調査を実施する。	①－１　H31 年度の市人研に向け学年全体が参加できる研究授業・研究協議を実施するとともに，研究授業実施者に指導案検討会を実施する。 ①－２　学校評価（教職員）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より 10 %アップ。 ②　人権委員による挨拶運動を年５回以上実施する。 ③　職員会議や職員朝会等で，各種行事の案内を適宜行う。（年 30 回以上） ④　生徒の人権意識の変容をアンケート調査によって確かめる。	（評価指標による達成度） ①－１　市人研大会に９名の参加と，研究授業実施者に対して指導案検討会を３回実施した。 ①－２　昨年度 46 %，今年度 40 %であった。 ②　人権委員による挨拶運動を年間６回実施した。 ③　各種行事の案内を 35 回行った。 ④　人権意識調査アンケートを４月に実施。 （活動計画の実施状況） ①　研究協議・研究授業を 12 月 18 日に実施。 ②　挨拶運動を５回実施。 ③④　計画通り実施。	（達成度） B （所見） 来年度の市人研開催に向けて，城西高校で実施された市人研に各類より１名以上の９名が参加した。人権ＨＲ授業力向上のため，研究授業と研究協議を各学年で実施した。	人権ＨＲの授業力向上に向けた研修として，城西高校で開催された市人研へ９名の参加と，教職員全員へ公開授業指導案を配布した。さらに，研究授業と研究協議を少人数グループで実施し，ベテラン教員と若手教員が協議できる場をつくることができた。また，差別解消に向けた法律についての知識を深めるため，教職員向けに部落差別解消法の研修を実施した。	先生方の人権感覚を磨く研修をさらに充実させる必要がある。さらに，教職員研修と併せて，生徒の人権教育の充実と人権ＨＲの授業の補助教材として，ＩＣＴ教材等の充実を図る。また，全校生徒を対象とした人権教育講演会等の実施を図りたい。
5		③　ＰＴＡ研修などを充実させるとともに，家庭・地域への積極的な啓発に努め，学校・家庭・地域が一体となって展開する人権教育を推進する。 （進路部・人権教育課）	①　保護者も参加できる人権教育講演会を開催する。 ②　中・高生による人権交流集会に参加し，その内容を学校全体に伝え人権意識の高揚を図る。	①－１　保護者が参加できる人権教育講演会を年３回開催する。 ①－２　学校評価（保護者）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より10%アップ。 ②　中・高生による人権交流事業生徒部会に10回以上参加する。	（評価指標による達成度） ①－１　２回実施。 ①－２　昨年 17 %，今年度 21 % ③　生徒部会・スタッフミーティングに 21 回参加。 （活動計画の実施状況） ①　５月 10 日（木），11 月７日（木）の２回実施。 ②　中・高生による人権交流事業中部ブロック生徒部会に８回，県交流集会生徒部会・交流集会に３回，県外研修に１回，スタッフミーティングに２回の計15回人権委員会・人権研究部生徒と参加した。	（達成度） B （所見） 各学年で実施した外部講師による人権教育講演会を保護者に向けて２回実施した。「中高生による人権交流事業」生徒部会には，計画の 10 回以上の 15 回参加した。	本校が，「中・高生による人権交流事業」中部ブロック事務局であったので，中部ブロックの会場として生徒部会を８回，スタッフミーティングを３回開催した。人権問題研究部と人権委員の生徒による少人数の参加であったが，参加した生徒の人権意識を深めることができた。	人権教育の推進のため「中・高生による人権交流事業」生徒部会に参加してきたが，少人数の生徒の参加であった。参加者を増やし人権意識の高揚を図るため，12 月 16 日に実施された「中・高生による人権交流集会」に当日だけでも，参加してくれる生徒の増加を図っていきたい。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
6	学習指導 ①　課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより，基礎・	①　基礎・基本の定着を図り，それを活用した実践的な知識や技術を身につけさせる。 （教務部・教務課）	①　生徒の実態把握に努め，指導内容に創意工夫を生かしたり，内容の重要性や生徒の実態に応じて，アクティブラーニングの手法を用いるなどして生徒一人	①　学期末成績の平均点を昨年同時期と比較して，１%アップを目指す。また，今年度授業評価における理解度のポイント数を 0.1 %アップを目指	（評価指標による達成度） １・２学期末の全教科平均と昨年同時期の全教科平均と比較してそれぞれ－ 1.0 %，－ 0.7 %となり，やや減少傾	（達成度） B （所見） 授業に対する興	①　アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施し，興味関心の増加や言語活動の充実，生徒をきちんと見据えた授業を	①　意識調査の結果からは生徒の自己肯定感を増加させるような教員の姿勢や言語活動を意識した授業が実施されていること

	基本の定着を図る。 個別指導により，生徒間の差を是正していく。また，家庭学習等への取組も促す。		一人の能力を伸長する。また，必要に応じて義務教育段階の学習機会も適宜設ける。	す。	向であるが，ほぼ横ばいの成績となっている。 （活動計画の実施状況） アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施しており，主体的・対話的で深い学びを実践することができた。また，放課後遅くまで，個別指導を行うなど，生徒一人一人の能力の伸長に努めた。	味関心は増加したが，結果に結びつかないところがあり，知識の定着が必要である。	実施しているため，意識調査では，「自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりしていると思う」，「先生は，あなたのよいところを認めてくれている」が昨年度に比べて増加している。	がわかる。 興味関心だけではなく，知識の定着や，より高度な内容にも挑戦するような取組も必要である。
	②　コース選択において，個別ガイダンスの工夫により，１学年の早い内から目的意識を持たせ，目標に向かって努力を続ける，自己学習力を身につけさせる。	②　授業や面談等を通じて具体的に「学びの指針」を示し，学習意欲を喚起するとともに，学習習慣の確立を図る。 （教務部・教務課）	②　自主的に学習に取り組む態度を育むため，生徒の学習の進め方や現状課題を確認する活動を計画的に取り入れ，家庭においても学習の見通しを立てて予習したり復習したりする習慣の確立を図る。	②－１　今年度授業評価における自己評価の準備・態度・興味関心のポイント数を，昨年度の 0.1 %アップを目指す。 ②－２　今年度意識調査における家庭学習１時間以上のポイント数を，昨年度の３%アップを目指す。	（評価指標による達成度） ②－１ 授業評価における自己評価では２・３年生が頑張ったので，「授業準備」が，1.8 %，「授業態度」では 2.4 %アップした。 ②－２　意識調査では，「１時間以上勉強している」が１年が 21 %，２年が７%減少している。 （活動計画の実施状況） 考査１週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけた。	（達成度） B （所見） 自己評価では昨年度より準備・態度で良い結果であったが，意識調査では家庭学習の時間が減少しており，家庭での日々の努力の必要性が感じられていないように伺える。	②　考査１週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけたり，授業等で学習の進め方等を示したが，１・２年の家庭学習時間が減少し，予習や復習の習慣を身に付けさせる必要がある。 意識調査から１年は自己肯定感が低い傾向が見られることから学習意欲が不足しているように考えられる。	②　授業だけではなく，授業以外の取組を通しても学習意欲を喚起し，授業に対する準備や家庭学習での予習や復習に結びつけ，結果として学力の向上につながる取組が必要である。
7		③　将来を見据えた望ましい職業観を育成し，主体的に他者と協働して学習する態度を育てる。 （教務部・教務課）	③　類での専門教育や職業内容の研究を通して，将来の就職等への具体的目標を持ち，その達成のために自主的に学習に取り組む態度を育む。 また，実験・実習をとおして人間関係形成・社会形成能力を育む。	③　今年度授業評価における自己評価のポイント数を，昨年度の 0.3 %アップを目指す。	（評価指標による達成度） 授業評価における自己評価の「記録」では昨年度とより 1.0 %アップし，また，「提出物」も昨年と同様に高い結果となった。 （活動計画の実施状況） 資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで，高い意識を持ち続けている。また，大学との連携を通して，研究の深化も達成できた。	（達成度） B （所見） 資格試験やコンクールに積極的に取り組み，意識は高く維持できているが，結果が出ないところもあった。	③　資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで，意識は高く持ち続け，主体的に学習する姿勢を育成できている。また，高大連携や企業見学を通して，自分の進むべき，進路についても具体的に考えることができている。	③　資格試験では結果が残せるように授業等の改善などに取り組む必要がある。また，高い意識を持ち続けるためにも，企業・大学等との連携を一層積極的に行っていく必要がある。
8		④　読書の奨励を図り，基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。 （教務部・教育情報課）	④　図書館の積極的な活用を図り，読書の奨励を行う。	④　図書貸出数が月間 300 冊以上。	（評価指標による達成度） 平均月間貸出数 424 冊。 （活動計画の実施状況） 新入生オリエンテーション。 図書館だより発行。(10 回) コース別推薦図書リスト作成。（４種） 図書展示・読書推進イベント。 県立図書館との連携。 読書感想文課題の実施。 各種コンクール応募案内。 図書委員会活動として推薦図書リスト作成。(2回) 文化祭展示。	（達成度） A （所見） 月間貸出冊数は昨年度より約１割増加し，目標値を超えることができた。	④　新入生オリエンテーションや，広報・展示・イベントにより図書館に興味を持たせ，貸出数に繋げることができた。 教科やコースでの図書館利用が，幅広いジャンルの図書の貸出に繋がった。 図書委員会活動に自主性が見られるようになった。	④　クラスによって貸出数に差があり，全体に読書習慣を身につけさせるために，担任等と連携し粘り強く働きかける必要がある。 また，多様化する生徒の進路や，主体的な学びに向けて，多角的な資料を備える必要がある。加えて，図書委員会活動の活性化も必要である。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
9	生徒指導 ①　基本的生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。	①　基本的生活習慣の確立を図り，時と場にふさわしい礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに，遅刻回数の減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 （指導部・生徒課）	①　遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により，規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ②　外来者へのあいさつを徹底する。また，集会時において，８Ｓの一つである「躾」を徹底する。	①　月間登校時遅刻率を 1.0 %未満とする。（１日当たり 9.0 人） ②　毎月５日間程度，コース長や学年主任（学年副主任），当日日直，生徒課員で正門における登校時身だしなみ指導	（評価指標による達成度） ①　１日の遅刻者平均は，3.7 人で 0.41 %であった。 ②　毎月初めに５日間実施し，登下校時身だしなみ指導を類・コース長，学年主任で行った。 ③　各授業開始直後や放課後	（達成度） B （所見） 計画通り実施できた。	①　数値的には目標達成することができた。一昨年度を遅刻数は下回ったものの，昨年の遅刻数を上回った。悪天候による影響が例年より多くあったものの年度末に向け，油断できない傾向にある。	①　１日の遅刻者平均を本年度同様，1.0 %未満（１日当たり 9.0 人）とし，本年度以上の数値を目標とする。 ②　本年度通り実施し，下校時まで身だしなみが維持できるよう，教職員が

	また，家庭との連携を密にする。		③　問題行動の未然防止に努める。	を実施する。 ③－１　毎時の休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し，各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。 ③－２　ＨＲ担任と日直が連携し，放課後の教室施錠を徹底する。	に各教室の施錠確認および校内巡視を実施した。また，昼休み時間は，校内の主要な門において巡視も行った。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。 ②　担当教員と連携し計画通り実施できた。 ③　担当教員と連携し計画通り実施できた。		②　登下校時の身だしなみは正せたものの，校内における服装の乱れが若干目立った。 ③　各クラスの施錠状況は良かったものの，生徒自らが責任をもって貴重品などを管理する指導が必要となった。	連携し注意喚起する。 ③　本年度通り巡視態勢を継続し実施する。生徒の所持品については自他の区別を明確にし，自らが責任をもって管理できるよう，様々な場面を捉え指導していく。
10	②　遵法精神の涵養と意識の高揚と知識の定着を図る。また，全教職員が温度差のない指導が行えるようにする。	②　定期的に規律指導を行い，ルール遵守から集団生活の規律向上に努める。自ら率先して考え，判断・行動のできる能力を育てる一助とする。 （指導部・生徒課）	①　一人一人が充実した学校生活を送る中で自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせる。 ②　喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話，携帯電話・スマートフォン(ＷＥＢ関係を含む)安全教室，制服を美しく着こなすセミナーを実施することで，心の躾を向上させる一助とする。	①　規律指導を毎月初めに実施し，指導を徹底する。各回とも違反者については，一定期間内で完全に直させる。 ②　喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話や携帯電話・スマートフォン(ＷＥＢ関係を含む)安全教室，制服を美しく着こなすセミナーを開催し，生徒の意識高揚と知識の定着を図る。	（評価指標による達成度） ①　規律指導に抵触した生徒は少なくなった。一部で軽微な違反が見られたものの，期日内に改善することができた。 ②　意識の高揚と知識の定着が見られた。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。 ②　計画通り実施できた。	（達成度） Ｂ （所見） 計画通り実施できた。	①　規律指導以外において，男子の頭髪・シャツ出し，女子の化粧・スカートの巻き上げが目立った。 ②　各講演等を真剣に聞くことができ，学校生活や家庭生活に活かす一助となった。	①　規律指導カードを迅速に集計し，それを活用した指導体制を整える。また，担任を通した保護者との連携を密にし，軽微な違反を見逃さない指導を実践していく。 ②　本年度通り実施する。より一層の意識の高揚と知識の定着を望める講演を計画していく。
11	③　交通道徳を遵守させ，登下校時の交通安全指導を徹底させる。	③　「学校安全の日」,「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して，交通安全教育の一層の徹底を図る。 （指導部・生徒課）	①　毎月 20 日を「学校安全の日」とし，教職員や保護者，生徒課員が連携して，通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行う。 ②　自転車点検や駐輪場での施錠確認，駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し，道路交通法を遵守させる。 ③　生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。	①　年間を通して，日直と生徒課員が，正門を含む学校近隣において,登下校指導を行う。特に，毎月 20 日には，輪番制で各学年ＰＴＡ役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ②　年間５回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返し行う。 ③　生徒会や交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓などを行う。	（評価指標による達成度） ①　登下校指導をはじめ，毎月 20 日に行う交通安全指導を多くの教職員の協力を得て実施できた。 ②　年間５回の自転車点検に加え，１学年は自転車安全整備士による訪問点検を実施できた。また，年間で自転車事故の多い中間考査最終日に交通安全教室を実施し，交通マナー等について周知することができた。 ③　生徒会や各種委員と連携した取組を行うことができた。特に，万一事故が起こってもあわてずに対応できるよう，事故状況メモのカードを全生徒に携帯させた。 （活動計画の実施状況） ①　概ね実施できた。 ②　計画通り実施できた。 ③　計画通り実施できた。	（達成度） Ｂ （所見） 計画通り実施できた。	①②　これまでの登下校指導や交通安全指導などにより，歩行者や近隣住民の方々からお褒めの言葉をいただけるようになってきた。思考を凝らした交通安全教室や自転車点検を行うことができた。 ③　交通委員と広沢自動車学校が連携し，次年度の交通安全教室で使用する教材づくりをスタートさせた。	①②③　登下校指導を全教職員が協力し，実践できる指導体制を確立していく。また，駐輪場における自転車の施錠・整理整頓，交通マナーの向上を各種委員会と連携するなか強化していく。引き続き万一事故が起こってもあわてずに対応できるよう，事故状況メモのカードを全生徒に携帯させ，自転車事故減少に努めていく。
12	④　生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え，自己実現の一助とする。	④　教育活動全体を通して，全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し，心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 （指導部・生徒課）	①　定期的に校内巡視を行い，いじめの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。	①　各学期末に，年合計３回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し，生徒の生活状況を確認する。	（評価指標による達成度） ①　年間行事の各学期末に，ＨＲを設定しいじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。	（達成度） Ａ （所見） 計画通り実施できた。	①　アンケート調査結果から迅速に対応し，生徒からの相談，悩みに対して組織的に対応し解決の糸口となった。	①　本年度通り実施する。常に「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち，些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心掛けておく。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
13	進路指導 ①　将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と，生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。	①　進路への興味・関心を喚起し，将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	①　ＨＲへ各種進路情報を提供する。	アンケート調査 ①　ＨＲへの情報の提供 満足度　80 %以上。	（評価指標による達成度） ①　本年度の学校評価アンケートの結果から生徒 95.2 %，保護者 89.0 %の満足度が得られた。 （活動計画の実施状況） ①　必要に応じ随時実施した。	（達成度） Ａ （所見） ①　概ね達成できた。	①　情報提供を行う中で，情報の共有ができ，生徒の進路実現に対する意識の向上および生徒自らが考えるきっかけができた。	①　進路実現に対する生徒の意識をさらに向上させるために，オープンキャンパスや工場見学への参加の機会を増やす。そのために，適切に生徒への情報の提供を適宜行う必要がある。

14	②　求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。 ③　進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	②　生徒一人一人の能力・適性，興味・関心に対応した組織的･継続的な進路指導を展開する。 （進路部・就職課・進学課）	①　生徒一人一人の理解を深めるために個人面談を実施し，生徒の希望や能力に応じた進路希望を実現するため，進学・就職補習および進路相談を充実させる。	アンケート調査 ①　適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80 %以上。	（評価指標による達成度） ①②　本年度の学校評価保護者アンケート結果から 89.1 %の満足度が得られた。 （活動計画の実施状況） ①　個人面談は各担任およびコース長により４月から継続的に実施できた。 　アンケート調査は，３年生で４月～７月の４回，１・２年生で１月の１回実施した。 ②　補習は，年間計画通りにほぼ実施できた。	（達成度） A （所見） ①　個人面談は各クラスで十分実施できた。 ②　補習は年間計画通りに実施できた。	①　特に３年生は４月から放課後を利用して継続して面接を実施することで，進路に対する意識の高まりが早くなった。 ②　放課後の進学補習を実施したことで早期からの進学意識の向上につなげることができた。また夏休みに特別補習を実施し，進学希望者への継続的な指導を行った。よって国公立大ＡＯ入試においては 63 %の合格率であり，推薦入試とあわせても 70.5 %の合格率であった。 　求人数が大幅に増加したこともあるが，４月の段階から生徒の意識を高めることにより 11 月上旬に就職内定率 100%を達成することができた。	①　放課後は校務等のために継続した実施が困難なクラスもあった。面談時間を行事の中に設定するなどして各担任が落ち着いた環境の中で実施できるよう配慮する必要がある。 ②　昨年度に比べると放課後補習は計画通り実施できた。意欲的に参加する生徒が多数見受けられた。補習への取組方について集会での指導が徹底していた成果が表れた。 　技術系の進学希望者が大幅に増え，対応する教室の確保が困難であった。以前から使用していた特別教室を進学補習に対応できる教室に変更する必要がある。 　入社１年以内に退職する生徒もいるため，企業からの情報等の収集も更に行い生徒と企業とのミスマッチを減らす取組が必要である。
15		③　ＩＣＴを利用して，生徒の学校や家庭での生活を把握し,改善に努める。 （進路部・就職課・進学課）	①　ＩＣＴを利用して，学習記録や考査等テストの成績を記録し，ＨＲ担任と生徒・保護者との面談の資料として活用し，主体的な取組が行えるように促す。	①　科学系の平日の家庭学習時間を２時間以上，休日の家庭学習時間を３時間以上。	（評価指標による達成度） ①　概ね達成できているが，主体性をもっての取組においてはまだまだ改善の余地がある。 （活動計画の実施状況） ①　必要に応じ随時実施した。	（達成度） A （所見） ①　概ね達成できた。	①　ＩＣＴの活用は便利であるが，一方ではＨＲ担任の負担を増やすことになっている。担任だけでなく教科の側からのバックアップや生徒の主体的な取組につながるような活動が必要である。	①　やらされる学習より自分で目的をもって主体的に学習に取り組めるような仕掛けを考え，将来の深い学びにつなげられるような課題の出し方を検討する。
16		④　進路ガイダンスや講演会等を通して，キャリア教育の充実を図り，社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 （進路部・就職課・進学課）	①　生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。 ②　進路講演会等により,勤労観,職業観を養い，職業に対する意識の高揚を図る。	①　進路ガイダンス実施後 　満足度　80 %以上。 ②　進路講演会等実施後 　満足度　80 %以上。	（評価指標による達成度） ①　実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 ②　実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 （活動計画の実施状況） ①　大学の先生や進学情報会社の講師を招き，実施できた。 ②　企業の社長や本校の卒業生を講師に招き，実施できた。 （活動計画の実施状況） ①②　計画通り実施できた。	（達成度） A （所見） ①　進路ガイダンスは計画通りに実施できた。 ②　進路講演会は必要に応じて講師を招聘して実施できた。	①②　ガイダンスや講演会は学校外部の方々からの講話を聞くことができるよい機会である。ガイダンスで各分野ごとの説明を聞いたり，講演会では企業で活躍する卒業生からの貴重な経験を聞けたことは将来の目標を考える上で貴重なものとなった。	①②　最新の情報や話題は生徒にとっても魅力的に感じており，進路意識の醸成につながっていた。また小論文講演会や模試を実施することで文章を読んだり書いたりすることの必要性を感じる良いきっかけとなった。 　卒業生を招いての講演会を，今年度も全クラスで実施することができた。次年度もできる限り多くのクラスで実施する必要がある。

学　校　自　己　評　価

年度目標					年度評価（３月１日現在）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
17	教育相談・特別支援教育 ①　相談・支援活動を充実させる。	①　生徒の変化を見逃さない。 （指導部・教育相談課）	①　生徒の出席状況の把握と支援を検討する。 ②　専門機関との連携を図る。	①　欠席の続く生徒に関して適切な対応を検討する。 ②　必要に応じて専門機関との連携を図る。	（評価指標による達成度） 概ね実施できた。 （活動計画の実施状況） ①－１　１学期にクラスの状況を把握することで，特別な支援を必要とする生徒への対応ができた。 ①－２　毎日の生徒の欠席状況から生徒の状況を把握し，関係する教員と連携し管理職へ報告できた。	（達成度） B （所見） ほぼ計画通りにできた。	①②　毎日の生徒の欠席状況を把握することで，生徒の状況を担任や関係する教員と共有し，保護者やスクールカウンセラーとうまく連携できたケースもあった。また，養護教諭も含めて情報交換をし，そのことによってより多面的に生徒の状況を把握することができた。	①②　次年度も引き続き生徒の欠席状況や保健室利用状況を把握することで，早期に生徒の問題を見つけ，スクールカウンセラーなどを活用した対応をする。

					②　本年度も配置された常勤スクールカウンセラーを活用できた。			
18		②　相談活動を充実させる。 （指導部・教育相談課）	①　教育相談室の放課後の利用を促進する。 ②　相談事業を広報する。	①　放課後に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ②　「ほっとだより」を各学期１回以上発行する。	（評価指標による達成度） 概ね実施できた。 （活動計画の実施状況） ①－１　スクールカウンセラーが放課後の相談に対応し，相談活動ができた。 ①－２　スクールカウンセラーが一年生の生徒全員に面談を実施し，予防教育ができた。 ②　「ほっとだより」を計画通り発行できた。	（達成度） A （所見） ほぼ計画通りにできた。	①－１　スクールカウンセラー，教育相談・特別支援コーディネーターと養護教諭のミーティングを各学期１回開催し，相談室開放が円滑にできるようにした。 ②－１　「ほっとだより」は，放課後の教育相談を推進する上で大切な役割を持つため，各学期違うトピックを入れて，心に関する認知を高める内容作りに努めることができた。	①　ミーティングの回数を月１回開催する。 ②　次年度も引き続き「ほっとだより」を発行する。
19		③　学校全体での支援体制の充実を図る。 （指導部・教育相談課）	①　校内研修会を開催する。	①　校内研修会を年１回以上開催する。 ②　校外研修会への参加を呼びかける。	（評価指標による達成度） ①　１回開催できた。 （活動計画の実施状況） ①　本年度は「性の多様性を理解するために」についての講演を大学院教授から聴き，理解を深めた。 ②　掲示を通じて広報したり，職員朝礼時に全教員へ研修会の連絡ができた。	（達成度） B （所見） ほぼ計画通りにできた。	①　一学期は人権教育課と教育相談課の共催で校内研修会を開催した。またスクールカウンセラーが教育相談課員を対象に研修会を開催した。 ②　校外研修へ参加することによって，最新の研究に触れ，本校の教育相談業務に生かすことができた。	①②　次年度も引き続き，その年度の生徒の必要に応じた内容の研修会を開催したり，参加したりしたい。
20	環境教育 ①　各クラスの環境整美委員を中心にＨＲ担任や清掃分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。	①　日々の清掃活動の充実を図り，美しい環境が整った学校づくりに努め，次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。 （特活部・環境教育課）	①　校内美化週間期間中，環境整美委員を中心に清掃の徹底，ゴミ分別の徹底，ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ②　学校行事（体育祭，文化祭）などの際に発生する，ゴミ問題について，環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り，自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	①　日頃の清掃，ゴミの分別の徹底，ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ②　校内への泥汚れ侵入禁止。 ③　学校行事（体育祭，文化祭）などの際，環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーが守れたか。	（評価指標による達成度） ①　日頃の清掃状況について ・毎日清掃が良くできた。 94％ ・ゴミ分別が良くできた。 94％ ・掲示物，ロッカーの整理整頓が良くできた。78％ ②　トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ③　学校行事について ・体育祭でのモラルやマナーが守られた。　94％ ・文化祭でのゴミ分別は守られた。　93％ （活動計画の実施状況） ①　各クラスの環境整美委員を中心にＨＲ担任の指導のもと清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。 ②　学校行事について 環境整美委員は，体育祭，文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。	（達成度） B （所見） 評価指標関係について，多少改善しなくてはいけない。 ①　清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ②　毎日のトイレ清掃は，概ね達成できた。 ③　体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については，多少改善しなくてはいけない。	①・日頃の清掃活動について 「清掃が大変良くできた。」「よくできた。」含め94％ 「多少改善点がある」６％ 多少改善しなくてはいけない。 ・ゴミ分別について 「ゴミ分別が大変良くできた。」「よくできた。」含め94％ 「多少改善点がある。」６％ 今後もゴミ分別に対する意識の高揚に取り組まなくてはいけない。 ・掲示物，ロッカーの整理整頓 「掲示物，ロッカーの整理整頓が大変良くできた。」「よくできた。」含め78％ 「多少改善点がある。」18％ ロッカーの上が散らかっていて改善点が多い。 ②　学校行事について ・文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め18％ 「模擬店でのゴミの分別多少改善点がある。」「改善点がある」含め６％ ・体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め12％	①　各クラスの環境整美委員会を中心にＨＲ担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また，アンケート調査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し，環境美化週間等に反映していきたい。 ②　学校行事の体育祭では実施場所が変わったこともあり，例年以上に啓発活動を実施していかなくてはならない。文化祭では，来校者のマナー向上を啓発活動が課題である。 ③　環境整美委員会は随時開催していきたい。

							「マナーを守り，各自のゴミは，持ち帰る。」「多少改善点があった。」「改善点があった。」含め６％ 文化祭では，入場者や生徒たちへのマナーやモラルの高揚を行わなくてはならない。 体育祭ではゴミゼロの啓発活動を通じて，ゴミ散乱状況が改善された。それと同時に，ゴミを出さない工夫も必要である。引き続き啓発活動を続けていく必要がある。 ③　環境整美委員会を年間５回実施し，係活動では概ね良くできた。	
21	防災教育 ①　防災委員，防災クラブの活動をベースとして，災害時に命を失わない，役に立つ心を育成する。	①　地域と共に防災活動を行い,社会の一員として，求められている防災マインドを育てる。 ②　災害時を含め，社会で主体的に動ける心を育てる。(防災教育)	①　地域と共催の防災訓練を企画，実行する。 ②　災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。	①　２カ所以上の他団体と共催し 200 名以上の参加を目指す。 ②　炊き出し訓練や日頃の準備として，効率面，衛生面，実用面などを考慮した器具等を選別，使用出来ることを目指す。	(評価指標による達成度) ①　今回は夏の異常気象により，保育園と幼稚園の参加が無くなり，100 名程度の参加となった。 ②　炊き出し訓練の器具等については，海洋コースの装置を使い，適切な訓練ができた。 (活動計画の実施状況) ①　第１回防災訓練，第２回防災訓練，炊き出し訓練共に，地域住民や障がい者センターの方々の積極的な参加があった。 ②　防災クラブ委員が配付側で，準備配付を行い，約 400 名に食事を用意できた。地域住民も 50 名ほど参加した。	(達成度) B (所見) ① 防災に時期は無いのであるが，そういった観点でも意識を高める活動をしたい。 ② 現実的な保存食を３日分くらいの確保が急務であろう。	①　生徒に関しては，自助はもとより共助の精神が高く，社会の一員としての防災マインドは高まっていると思われる。 ②　災害時に主体的に動けるよう，心理面での効果も考えて実施しているが，更に工夫していきたい。	①　より実践的な内容を考えると，実施回数や実施時期も多種多様にした方が良いかも知れない。 ②　災害時に主体的に動けるよう，意識を高める教育として，先ずは自助，次に共助の精神を様々な訓練を通して醸成したい。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	保健安全教育 ①　保健安全に関する指導・情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	①　生涯を通して,健康で活力がある生活を送るために，健康の保持増進に関する指導の充実を図る。 （特活部・保健厚生課）	①　定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員を中心に，教室内の環境整備・安全点検，ＡＥＤの定期点検等を実施する。 ③　学校行事における保健安全活動を充実させる。 （特活部・保健厚生課）	①－１　定期健康診断受診率 100 %。 ①－２　保健だよりの発行。（月１回） ②　生徒保健厚生委員会活動。（月２回） ③－１　ＨＲ活動等における保健講演会の開催(年１回) ③－２　文化祭における保健展を開催する。 ③－３　学校献血の実施。（年３回）	(評価指標による達成度) ①－１　定期健康診断受診率 100 % ①－２　保健だよりを月１回発行。 ②　生徒保健厚生委員会活動を月平均３～４回実施。 ③－１　歯科講演会（１年），献血セミナー（３年）の開催。（年２回） ③－２　文化祭における歯科保健展の開催 ③－３　学校献血を年３回実施。 (活動計画の実施状況) ①－１　未受診者に対して定期健康診断の意義を繰り返し説明し，学校医・歯科医の協力により，受診率を 100 %にすることができた。(長期欠席者を除く) ①－２　保健だよりを月１回，特別号を年２回発行した。	(達成度) B (所見) ①から③にかけての計画は，概ね計画通りだった。 ③－１については，講師の予定や学校行事との調整がうまくできなかったため，２年生対象の保健行事（講演会等）が開催できなかった。年度当初から計画的に進めていく必要がある。	①－１　未受診生徒に対し定期健康診断の意義を繰り返し説明し，学校医・歯科医の協力により，受診率を 100 %にすることができた。 ①－２　保健だよりだけではなく，健康診断や文化祭等の学校行事により，機会を捉えた情報提供が行えた。 ②　生徒保健厚生委員会活動により，定期健康診断の準備・片付けや，文化祭保健展の活動，学校内の環境整備・安全点検等が行えた。 ③－１　専門家を招いて歯科講演会，献血セミナーを開催することで，健康・安全に関する関心が高まった。 ③－２　文化祭での歯科保健展を開催することで，	①－１　定期健康診断の重要性・必要性を伝え，次年度も受診率 100 %をめざすとともに，二次検査（精密検査）の受診率の向上を図る。 ①－２　月毎の保健だより発行だけでなく，学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員会活動，環境整備・安全点検の活動だけにとどめず，学校行事における保健活動で活躍できるような内容を検討する。さらに，保健活動のリーダーとなって活躍できる生徒の育成もめざしたい。 ③－１・２・３　引き続き講演会や文化祭の保健展，献血推進活動を開催し，健康・安全に関する

					②－１　安全点検だけではなく，定期健康診断や文化祭保健展，感染症予防等，様々な機会を捉えた活動ができた。 ③－１　専門家を招いて，歯科講演会，献血セミナーを開催できた。 ③－２　学校歯科医等の協力により，文化祭での歯科保健展を開催し，たくさんの来場者があった。 ③－３　学校献血を年３回実施し，生徒・教職員が献血に協力することができた。		歯科保健についての情報提供を行えた。 ③－３　学校献血を年３回実施することで，献血の意義と献血の現状を理解でき，献血を身近なものとして捉えることができるようになった。	関心を高める。
23	特別活動 ①　特別活動への生徒の自主的な取組を充実させる。 ②　部活動の更なる活性化を図る。	①　生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事，生徒会活動の充実に努め，集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 （特活部・特別活動課）	①　生徒による集会時の司会進行，記録，挨拶を今以上に取り入れ，自主的に運営できるように指導する。 ②　文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り，生徒が意欲的に取り組む学校行事を目指す。 ③　みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い，仲間と協力して活動ができる能力を身につける。	①　生徒総会，壮行会，予選会を生徒が 100 %運営する。 ②　文化祭への生徒の満足度 90 %。 体育祭への生徒の満足度 85 %。 ③　みちピカ事業参加者 平均 70 名。	（評価指標による達成度） ①　生徒総会，壮行会，球技大会，予餞会は生徒が自主的に運営できた。 ②　文化祭への生徒の満足度 95 % 体育祭への生徒の満足度 95 % ③　みちピカ事業参加者 平均 166 名 （活動計画の実施状況） ①　生徒会執行部を中心に，主体的に活動できた。 ②　体育祭・文化祭ともに，クラスやコースで工夫が見られ，それぞれの特色が生かされた取組であった。 ③　６回の実施で，学校周辺の近隣を中心に丁寧な清掃を行った。	（達成度） A （所見） ①　各行事で生徒会が中心となって運営できた。 ②　文化祭・体育祭ともに目標の満足度を達成した。 ③　目標の参加者数を上回ることができた。	①　各行事で生徒の自主的な運営による活動が展開できた。 ②　体育祭ではコース対抗で１学年から３学年が協力して活動することで，縦のつながりが強化され，生徒の満足度も高まった。 文化祭は各コースによる企画で本校の特徴を生かした内容の充実を図った。 ③　みちピカ事業は５回の実施で，平均 166 名の参加があり，昨年度を上回る平均人数となった。	①　生徒会役員会を定期的に開催し，生徒会の自主的運営を更に強化していきたい。 ②　文化祭の満足度は高いものの，本校の特徴を生かした企画を生徒会役員と共に考えていきたい。 体育祭は，生徒の希望を取り入れた新たな種目を取り入れていきたい。 ③　参加生徒に偏りが見られ，一部の者だけが活動しているので，様々な生徒が参加できる活動にしていきたい。
24		②　部活動を充実・活性化させ，日々の活動を通して精神面，体力面での成長を図るとともに，団結心や協力心を育成する。 （特活部・特別活動課）	①　部紹介・体験入部を実施し，部活動の入部を促進する。 ②　部活動の活動内容や成績を積極的に広報し，生徒の意欲を高め，校内の共通理解・協力体制を強化する。	①　入部率 80 %以上。 ②　表彰伝達を毎月行う。	（評価指標による達成度） ①　入部率 92.6 % ②　表彰伝達を年間 12 回行った。 （活動計画の実施状況） ①　部活動紹介で，各部１年生の入部を呼びかけるとともに，部活動見学週間を設定し，活動場所等の案内を行った。 ②　予定通り実施できた。	（達成度） A （所見） ①　着実に入部率を高めることができた。 ②　部活動の活動内容や成績を積極的に広報できた。	①　各部・同好会の活発な取組が入部促進につながった。 ②　月１回，集会時に表彰伝達を行うことで運営の簡素化と時間短縮を実現した。他の部の活躍が刺激となり，各部好成績を残すことができた。	①　補習との両立を考え，更なる入部率の拡大に努める。 ②　様々な機会を利用して，部活動の活躍や取組を全校生徒に伝え，部活動の更なる活性化につなげる。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
25	工業・水産教育 ①　工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し，社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。	①　工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し，実験・実習や課題研究，インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。 （各類・コース）	・情報科学コース ①　オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・情報科学コース ①－１　大学と連携した講義やオープンキャンパスを年３回以上実施する。 ①－２　大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒アンケート実施結果で，満足度が４段階で平均 3.7 以上を目指す。	・情報科学コース （評価指標による達成度） 遠足で２大学・２研究所訪問実施。 課題研究で高大連携実施。 生徒満足度 3.8。 （活動計画の実施状況） 概ね予定通り実施できた。	・情報科学コース （達成度） A （所見） 概ね予定通り実施でき目標が達成できた。	・情報科学コース 実際に大学を訪問することで大学の雰囲気がよく理解できた。未来 ICT 研究を見学する等，科学の最先端に触れることで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。日程の折り合いがつかず１大学に訪問できなかったことが残念である。	・情報科学コース 生徒の進学への意識づけとして定着してきている。是非継続していきたい。新規の大学訪問を計画していきたい。また，科学技術に関心を持つような研究所等へ訪問し，学ぶ意義を考えさせたい。大学との連絡を早期に取り日程調整を検討する。
			・環境科学コース ①　オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に	・環境科学コース ①－１　大学と連携した講義やオープンキャンパスを年３回以上実施する。	・環境科学コース （評価指標による達成度） 遠足で４大学訪問実施。 徳島大学より教員３名，院	・環境科学コース （達成度） A	・環境科学コース 大学と連携を図ることによって，大学の先生や学生たちと直接話ができ，生徒	・環境科学コース 次年度も継続して行いたい。大学とは，化学系の他にも連携を深め，より幅広

			役立てる。	①－２　大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒アンケート実施結果で，満足度が４段階で平均 3.7 以上を目指す。	生等 12 名を招き「実験講座」を実施した。徳島大学主催「科学体験フェスティバル in 徳島」に 12 名が参加した。 （活動計画の実施状況） ほぼ，計画通り実施できた。	（所見） ＳＳＨも絡み，地元大学との連携がよく図られ概ね目標を達成することができた。	が大学について知る良い機会となっている。このことによって生徒の進学に対する意欲も向上している。	い視野を持って取り組んでいきたい。
			・機械コース ①　工場見学において職場を見学する。また，インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・機械コース ①－１　大手企業の工場見学を全員に対して実施する。 また，２年生の 30 ％以上の生徒に対して，インターンシップを実施する。 ①－２　インターンシップ実施においては，生徒の希望する職場に応じた企業を斡旋する。	・機械コース （評価指標による達成度） 大手企業の工場見学を全員に対して実施した。 また，２年生の 25.7 ％の生徒に対して，インターンシップを実施した。 （活動計画の実施状況） ほぼ，計画通り実施できた。	・機械コース （達成度） A （所見） インターンシップの参加割合が若干下がった分，企業を訪問する回数を増やし連携を密にした。	・機械コース 授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。 また，インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	・機械コース 工場見学は，生徒が在学中の３年間を通してバランス良く訪問先を決める必要がある。インターンシップはキャリア教育を推進する上で大きなウエートを占めるので生徒ができるだけ関心を持つよう工夫する。
			・生産システムコース ①　学習内容や就職先を勘案し，有意義な工場（職場）見学を行う。 ②　インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。参加や企業については参加者の自主性を重んじることに重点を置く。	・生産システムコース ①　県内外企業の工場見学を全員に対して実施する。 ②　インターンシップは２年生で行う。	・生産システムコース （評価指標による達成度） ①　５月 25 日に生産システムコース２年生，３年生全員に対し実施できた。 ②　クラスの約 30 ％の生徒に対して実施できた。 （活動計画の実施状況） ①　５月 25 日に生産システムコース２年生，３年生の全員で岡山県のＪＦＥスチール（株）西日本製鉄所を見学した。 ②　５企業に，10 名の２年生がインターンシップに参加した。	・生産ｼｽﾃﾑｺｰｽ （達成度） B （所見） ①　授業内容に近い見学ができて，有意義な学習内容となった。 ②　生徒の進路決定に重要な効果があった。	・生産システムコース ①　授業内容に近い見学ができて，有意義な学習内容となった。 ②　日頃学んでいることを，更に高度な実際の企業現場で，体験することによって自主性なども高まった。	・生産システムコース ①　生徒の興味関心も勘案し，更に今後の産業の社会的展望を見据えた内容を考えていきたい。 ②　企業数，参加生徒数共に増やす努力をしていきたい。
			・電気コース ①　生徒の視野を広め，主体的な進路選択の助けになるような機会として，会社見学・インターンシップを実施する。	・電気コース ①－１　各学年１回以上の会社見学。 ①－２　インターンシップ２社以上の実施。	・電気コース （評価指標による達成度） ①－１　２年のみ実施 ①－２　２社実施 （活動計画の実施状況） ほぼ実施できた。	・電気コース （達成度） B （所見） 他の学校行事との兼ね合いで難しい場合がある。	・電気コース 実際の設備などを見ることにより学力の定着に貢献した。 企業の方の話を伺うことで社会や自分の進路に関する考えが深まった。	・電気コース 会社見学は時期等を検討する。 インターンシップは引き続き継続し、更に依頼先の検討を行う。
			・情報通信コース ①　インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・情報通信コース ①－１　インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が４段階で平均 3.7 以上を目指す。 ①－２　インターンシップにＨＲ生徒の２割以上が参加し，項目の６割以上で「良い」評価をいただく。	・情報通信コース （評価指標による達成度） 目標値を達成した。 （活動計画の実施状況） ７名の生徒が参加し，全ての生徒に「良い」をいただいた。	・情報通信コース （達成度） A （所見） 高評価をいただいたが，引き続き継続して欲しいとのことであった。	・情報通信コース 本コースでは実習しない３ＤＣＡＤの操作や，３Ｄプリンターへの出力などを体験できた。このことで，ＩＣＴ系への関心が高まった。	・情報通信コース 次年度も継続していきたい。 新たな事業所を開拓し，３ＤＣＡＤや３Ｄプリンター関係にも見地を広げたい。
			・環境土木コース ①　関係機関との連携を図りながら，インターシップを実施し，生徒の専門に関する意識向上と進路選択に役立てる。	・環境土木コース ①－１　インターンシップ参加生徒数を２年生で 40 ％以上とする。 ①－２　インターンシップ報告会，課題研究発表会を実施する。	・環境土木コース （評価指標による達成度） ①－１　実施企業 10 社 18 名 43 ％の生徒が参加した。 ①－２　報告会は１・２年生で実施した。 （活動計画の実施状況） 生徒も積極的に参加した。	・環境土木コース （達成度） A （所見） 企業より高評価をいただき，次年度も実施したいと思う。	・環境土木コース 生徒の進路希望職種に応じてインターンシップ実施企業を調整している。その為，生徒の取り組みも積極的になってきた。このことが企業の評価にもつながっているように思われる。	・環境土木コース 企業からの実施依頼もあり，生徒の進路希望に応じて計画的に実施したいと思う。
			・建築コース ①　インターシップを通じて企業との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・建築コース ①－１　インターンシップに生徒の 20 ％以上が参加できるようにする。 ①－２　インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が４段階で平均 3.5	・建築コース （評価指標による達成度） おおむね目標を達成した。 （活動計画の実施状況） 見学や体験を通してほとんどの生徒が，仕事内容への興味や専門教科に関心を持つこ	・建築コース （達成度） B （所見） 昨年に引き続き建築士会と連携し	・建築コース 生徒は，働くことや進路について真剣に考えることができた。また，建築士会の方とのディスカッションで建築士の生の声を聞くことによって，建築業に対し	・建築コース 次年度も継続していきたい。

				以上を目指す。 ①－３　３学期に課題研究発表会を行う。	とが出来た。課題研究発表会を建築コース展で行った。	設計コンペに参加することができた。	て理解を深めることができた。	
			・総合デザインコース ①　インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。 ②　実習・課題研究を充実させ，コース展や各種コンペに参加し，対外的な活動を更に充実させる。	・総合デザインコース ①－１　インターンシップに生徒の 20 %以上が参加できるようにする。 ①－２　企業・大学訪問を実施する。 ②－１　H30 年度コース展を実施し，地域・中学校などに PR する。 ②－２　それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み，成果を出す。	・総合デザインコース （評価指標による達成度） ①　インターンシップには参加することができなかった。 　ダイハツ工業(株)のデザインルーム見学に２・３年生が 参加した。また１・２年生が神戸芸術工科大を訪問した。 （活動計画の実施状況） ②　コース展を実施し，300 名を超える来場者があった。また６次産業化プロデュース事業成果報告会において，地域，中学生に向けて活動をＰＲした。	・総合ﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ （達成度） Ｂ （所見） インターンシップに関しては,生徒の希望にあった企業を見つけられなかった。コース展だけでなく，コンペやイベントに積極的に参加した。	・総合デザインコース ①　企業訪問，大学訪問を通じて，多様な進路を知ることができた。 ②　コース展，コンペ，６次産業化プロデュース事業などのイベントに参加することよって地域や企業との連携を図ることができた。	・総合デザインコース インターンシップについては，進路に繋がるような企業との連携を行いたい。 対外的な活動については，次年度も継続していきたい。
			・海洋科学・海洋総合コース ①　関係機関と連携したフィールドワークやインターンシップを積極的に実施し，水産・海洋に興味関心をもたせる。	・海洋科学・海洋総合コース ①　漁業体験，フィールドワーク，インターンシップを実施し，実施後アンケートで水産・海洋に興味関心を持つようになった生徒の割合 80%以上を目指す。	・海洋科学・海洋総合コース （評価指標による達成度） ①　授業評価で興味・関心を持った生徒の割合 89% （活動計画の実施状況） ① 大敷網体験６回，志和岐港内調査６回，吉野川河口生物調査３回，内航船インターンシップ１回，等を実施した。	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ （達成度） Ａ （所見） ①　概ね達成できた。	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　フィールドワーク等をとおして，専門科目への興味・関心を高めることができた。	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　次年度も継続して取り組んでいきたい。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
26	工業・水産教育 ①　専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し，社会の変化や産業界の動向等に適切に対応し得る人材の育成を目指す。	①　工業や水産に関する専門的な技能の習熟度を高め，技能の向上を図る。 （各類・コース） ②　専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し，各種資格や検定の合格者の増加を図る。 （各類・コース） ③　各種競技会等へ積極的に参加し，専門性を高める教育を展開する。 （各類・コース）	・全類全コース ①　各コースの実態に即して，スキル検定等の実施やものづくりコンテストへの出場を目指す中で，技能の向上に努める。 ②　資格取得を奨励し，資格補習を積極的に実施する。	①　各コース毎に，技能の向上を目指した取組をする中で，各種コンテスト・大会へ出場し，各専門分野での上位入賞を目指す。 ②　工業系では，「ジュニアマイスターゴールド」取得者 15 名以上，「ジュニアマイスターシルバー」30 名以上を目指す。 ③　海洋系では「水産海洋技術検定」「栽培漁業技術検定」の合格率 80%以上を目指す。	（評価指標による達成度） （工業） ①　高校生ものづくりコンテスト県大会では各種目とも上位入賞を果たした。 　ジャパンマイコンカーラリー全国大会のＢａｓｉｃ部門で，準優勝した。 ②　ゴールド 28 名（昨年 18） 　シルバー 25 名（昨年 19） 　特別表彰２名（昨年０） （海洋） ①　徳島県及び四国地区ＳＳＨ合同生徒研究発表会，東京都立戸山高校ＳＳＨ生徒研究発表会，徳島県水産研究課成果発表会，四国及び全国水産海洋系高校生徒研究発表会，四国及び全国水産海洋系生徒意見体験発表会に参加し，発表を行った。 ③水産海洋技術検定 100%，栽培漁業検定 100 %合格。 （活動計画の実施状況） （工業） ①　概ね達成できた。 ②　資格取得のための補習等を計画的に実施した。 （海洋） ①　概ね達成できた。 ③　概ね達成できた。	（達成度） （工業）Ｂ （海洋）Ｂ （所見） （工業） ①　各種コンテスト大会へ出場し，その一部は上位入賞した。 ②　表彰者総数が前年度より 45 %増加した。 （海洋） ①　各種発表会に積極的に参加することができた。 ③　多くの生徒が積極的に取り組み成果をあげた。	（工業） 各コースにおける実習等でのスキルアップや資格取得のための補習も計画的に実施した。ジュニアマイスター取得目標値を，ほぼ達成した。 （海洋） ①　発表会参加生徒については，他校生徒の発表から刺激を受け，学習への意欲が高まった。 ③　長期休業日中の課題として，対策プリントを配付するとともに，生徒の状況に応じた補習を実施した。	（工業） 次年度へ向けスキルの向上とともに，資格取得においては合格率の向上を図るため，指導法の工夫や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 （海洋） ①　各種発表会に参加し，発表内容について指摘を受けた点について，さらに深めて研究し，改善できるようにしていきたい。 ②　補習時間で学習したことを家庭で復習する習慣が身につくように指導していきたい。

			・情報科学コース ①　科目「実習」においては，口頭試問を実施し，自ら学び，考え，問題を解決する態度を育成する。 ②　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ③　各プログラミングコンテストに積極的に取り組む。	・情報科学コース ①　期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ②　情報技術検定２級の合格率が 80 %以上。IT パスポート試験合格５名以上。基本情報技術者試験合格２名以上。 ③　プログラミングコンテストの入賞を目指す。	・情報科学コース （評価指標による達成度） ①　提出率 96% ②　情報技術検定２級 70% ＩＴパスポート合格３名。 基本情報技術者合格なし。 ③　オープンアプリコンテスト２作品提出。 （活動計画の実施状況） ①　週一回の実習を行い，その都度レポートを提出させた。 ②　夏休み等に各補習を行い受験させた。 ③　講座に参加してアプリケーションを作成した。	・情報科学コース （達成度） B （所見） ①　ほぼ全員が期限までに提出できた。 ②　資格については目標を達成することができなかった。 ③　新しくオープンアプリコンテストに参加した。	・情報科学コース 大多数の生徒が実習後，速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。口頭試問により内容の理解度も上がった。 資格試験に挑戦することで生徒の意識を高めたり，専門知識の定着に繋がった。 作品を作りコンテストへ出場することで達成感が生まれた。創意工夫する能力が身についたり，地元の理解につながった。	・情報科学コース 極わずかな生徒が提出期限に間に合わない。粘り強く指導し，今後も継続していく。 情報技術検定は昨年より合格率は上がったが目標は達成できていない。年間計画を見直し対応していく。 基本情報は難関であり，合格者を出すために指導法を検討する必要がある。 次年度も継続できるように関係機関との連携を図っていく。
			・環境科学コース ①　科目「実習」においては，口頭試問を強化し，自ら学び，考え，問題を解決する態度を育成する。 ②　徳島市内を流れる河川の水質調査を行い，徳島市，徳島県と連携して，郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。 ③　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ④　科学論文発表（ポスター発表）を目標に積極的に取り組む。 ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・環境科学コース ①　期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ②　徳島市・徳島県の環境担当部署との連携を図る。 ③　危険物乙４の取得率が 80 %以上を目指す。 ④　ＳＳＨ発表会（校内，県，四国）全国総合文化祭での発表を目指す。 ものづくりコンテスト四国大会に出場し，全国大会への出場を目指す。	・環境科学コース （評価指標による達成度） ①　提出率 98% ②　今年度は予算の関係で講習会等を実施できなかった。 ③　各学年の乙４取得率 １年 60 % ２年 89 % ３年 37 % ④　徳島県および四国大会でポスター発表を行った。 ものづくりコンテストは四国大会に出場した。 （活動計画の実施状況） ①　実習の各班で徹底した。 ②　今年度は予算の関係で講習会等を実施できなかった。 ③　補習を実施し，合格を目指した。 ④　今年度のものづくりコンテストは，県大会と四国大会が本校で行われた。	・環境科学コース （達成度） B （所見） ①　ほぼ全員が期限までに提出できた。 ③　資格取得については，目標を十分に達成できなかった。 ④　ＳＳＨ発表会（校内，県，国）でポスター発表した。ものづくりコンテストで四国大会に出場したが，全国大会には出場できなかった。	・環境科学コース 研究発表会・コンテスト等においては，積極的に取り組み，ある一定の成果を上げることができた。 実習レポートに関しては一部の生徒で提出が不十分なときがあった。 資格試験においては，２年生は目標を達成できた。他の学年においても，今後さらにチャレンジする主体的な姿勢が望まれる。	・環境科学コース 検定や資格試験の補習については，次年度も計画的に実施していきたい。 ＳＳＨ事業を進めることによって，全国レベルの活動を行っている他校生たちからの刺激を，本校生徒の活動の糧としたい。
			・機械コース ①　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施し，合格率のアップを図る。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・機械コース ①　２級ボイラー技士（２年）の合格率を補習出席者の 60 %以上。機械製図検定（３年）の合格率を 65 %以上を目指す。 ②　ものづくりコンテストで，県内優勝し，四国大会に進出する。また，四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き，本大会に出場する。	・機械コース （評価指標による達成度） ①　２級ボイラー技士（２年）の合格率は，補習出席者の 91.4 %。機械製図検定（３年）の合格率は 63.6 %であった。 ②　ものづくりコンテストで，県内準優勝し，四国大会に進出した。また，四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き，本大会に出場できた。 （活動計画の実施状況） 早朝補習，放課後補習，夏季休業日中の補習等を実施し対応した。	・機械コース （達成度） A （所見） 機械製図検定はほぼ目標を達成し，２級ボイラー技士は非常に高いレベルで達成できた。 各種大会・コンテストでも当初の目標を達成できた。	・機械コース 資格取得は専門教育・キャリア教育を進める上で，生徒に大きな自信を持たせることができた。また，２級ボイラー技士試験は，半年以上の長期にわたって早朝・放課後の補習を行うので，学習する習慣づけや学習の場としてのクラスの雰囲気作りにも効果があった。 各種大会・コンテストでは機械工作部員が手分けして出場した。このことにより，専門分野において非常に高度な技能を身につけることができた。	・機械コース 補習の教材やノウハウを，確実に次年度の担当者に引き継ぐシステムの構築が必要である。 各種大会・コンテストへの出場については，練習に危険性が伴うので，安全対策・安全指導を絶えず心がける必要がある。
			・生産システムコース ①　メカトロニクス関連企業に就職する際，学習していて良かったと評価されるような実習をしっかり実践する。 ②　コースの基幹となる資格を取得できるよう，最大限のサポートをする。 ③　各種の技術的なコンテストに応募出場し，賞を得る。	・生産システムコース ①　シーケンスなどのスキルスタンダードを含む学習内容を充実させる。 ②　クラス 60 %以上の合格率を目指す。 ③　ロボット競技など，全国大会出場を目指す。６次産業化事業や県主催の防災避難パネル製作などを通し，自主的に社会に貢献する生徒を育成す	・生産システムコース （評価指標による達成度） ①　メカトロニクス関係の実習内容に関しては，新たなものも含めて充実した内容となった。 ②　合格率は 51 %であった。 ③　ロボット競技は全国大会出場は果たせなかった。防災避難パネルの製作は他校設置のものを製作した。 （活動計画の実施状況） ①　新たに２年生の実習で３	・生産ｼｽﾃﾑｺｰｽ （達成度） B （所見） ①　新しい学習内容には，生徒は興味や意欲が高い。 ②　合格率がやや低かった。 ③　最新の技術での製作は難しい	・生産システムコース ①　進路先と学習内容や，社会と学習内容のマッチングは大切で，生徒はそういった点にも敏感であり，充実した内容を提供したい。 ②　生徒の意欲を高める必要性を感じた。 ③　各種競技や連携活動など，意欲的に取り組める環境作りが大切で，生徒はそれに答えてくれるだ	・生産システムコース ①　常に最新の技術を提供できるように準備したい。 ②　意識付けも含めて指導していきたい。 ③　新しい技術での設計製作やチャレンジには難しい面があるが，生徒の可能性を信じて取り組んでいきたい。

				る。	Ｄプリンタを導入して，３ＤＣＡＤと共に最新の学習内容を実践した。 ②　放課後や早朝の補習を実施した。 ③　防災避難パネルは徳島県立視覚聴覚支援学校に設置するものを製作した。デジタルサイネージ技術やマイコンの回路，プログラムまで設計製作し，最新の技術で構築した。	点もあるが，達成感は高いと思われる。	けの力がある。	
			・電気コース ①　資格試験に計画的に取り組み，適切な指導を行い合格率を上げることにより，知識・技能の向上と，主体性の確立を目指す。 ②　ものづくりコンテストに出場することにより，技能の向上を目指す。	・電気コース ①　１学年の第２種電気工事士合格率 90 %を目指す。 ②　県大会２位以内，四国大会入賞を目指す。	・電気コース （評価指標による達成度） ①　98 % ②　四国大会出場。 （活動計画の実施状況） 問題なく実施。	・電気コース （達成度） A （所見） 十分な成果があった。	・電気コース ①　資格に取り組むことで知識・技能の向上と主体性，積極性が増した。 ②　レベルの高い課題に挑戦することでより高い主体性や積極性を身につけた。	・電気コース ①　不合格者に対して個別の対策を立てる。 ②　指導者を含め，練習環境の充実を図る。
			・情報通信コース ①　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・情報通信コース ①　国家資格取得を目指し，一人２つ以上の資格を取得する。 ②　マイコンカーラリーで四国・全国大会出場を目指す。	・情報通信コース （評価指標による達成度） 80 %を越えている。 基本情報処理技術者試験に２年生が１名合格した。 （活動計画の実施状況） ベーシッククラスで全国２位の成績を収めた。	・情報通信コース （達成度） A （所見） 受験意欲と補習への参加継続が必要。 引き続き全国大会への駒を進められるように指導する。	・情報通信コース 難関の基本情報処理技術者試験に２年生が１名合格できた。 全国大会へ参加した先輩にあこがれを持つ様に指導を続ける。	・情報通信コース 何のために学習するのか，学習すると自分の興味の何が満足するのか等のモチベーションを保てるようにする。 四国大会を目標ではなく，全国大会出場を目標に取り組む。
			・環境土木コース ①　専門知識の理解と意欲向上のため資格取得を目指す。 ②　ものづくりコンテスト測量競技に出場をする。 ③　コンクリート甲子園に出場する。	・環境土木コース ①　２級土木施工管理技術検定・学科試験 70 %以上，測量士補 30 %以上の合格を目指す。 ②　四国・全国大会出場を目指す。 ③　入賞を目指す。	・環境土木コース （評価指標による達成度） ①　２級土木施工管理技術検定・学科試験合格 85 %，測量士補合格 43 % ②　四国大会出場。 ③　本戦出場ならず。 （活動計画の実施状況） 資格取得に向け計画的に実施した。	・環境土木コース （達成度） A （所見） 今後も継続的に取り組みたいと思う。	・環境土木コース ２級土木施工・筆記試験については，３年生全員が合格することができた。 コンテスト等の結果についても指導方法の改善などを検討し良い結果につながるよう取り組みたい。	・環境土木コース 資格試験について，新たな目標設定を検討中である。 全国大会に出場できるようにさらに取り組みたい。
			・建築コース ①　有益な資格を取得させ，検定の合格を目指す。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・建築コース ①　有益な資格取得をめざし，２つ以上の資格を取得する。 ②　ものづくりコンテストで，県予選突破し，四国大会に進出する。	・建築コース （評価指標による達成度） 目標には届かなかった。 （活動計画の実施状況） 主に実習において実施できている。	・建築コース （達成度） C （所見） 昨年度の６割程度の成果であった。	・建築コース 実習時に行うことで少人数学習となり理解できていない生徒に対する指導が容易であり確実な知識の習得につながっている。	・建築コース ①　資格試験と，授業内容のタイミングは完全ではない面があるが，生徒が積極的に挑戦出来るようにしたい。 ②　製作予算などをもう少し確保したい。
			・総合デザインコース ①　有益な資格を取得させ，検定合格率向上を目指す。 ②　資格取得を奨励し，資格補習を積極的に実施する。 ③　デザイン分野の各種コンクールに出品し，入賞を目指す。	・総合デザインコース ①　レタリング 70 %以上，トレース 80 %以上，色彩検定 60 %以上の合格率を目指す。 ②　補習に積極的に参加させる。 ③－１　ものづくりコンテストで県大会突破を目指す。 ③－２　課題研究の作品を各種コンペに出品し，入賞 10 以上を目指す。	・総合デザインコース （評価指標による達成度） ①　レタリング 77 %，トレース 92 %，色彩検定 74 %の合格率であった。 （活動計画の実施状況） ②　色彩検定やグラフィックデザイン検定，危険物の補習については早朝に行い，100 %に近い出席率であった。 ものづくりコンテストは四国大会出場を果たした。 ③　おおしま絵本コンクール，デザセン，パテントデザインコンテストで入賞を果た	・総合ﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ （達成度） A （所見） 各検定で目標とする合格率を上回った。	・総合デザインコース 実技検定であるレタリング，トレース検定は実習時だけでなく，放課後や家庭での学習で成果を上げている。 色彩検定，グラフィックデザイン検定，危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより，成果を上げてきた。	・総合デザインコース ①　資格については，今後も継続して，各検定の最上位を目指していきたい。 ②　積極的な資格補習への参加を促したい。 ③　各種コンペに今後も継続して出品していきたい。

					した。			
			・海洋科学・海洋総合コース ①　１年生で基本的なロープワークを身につけさせる。 ②　四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびＳＳＨ生徒発表会に参加する。	・海洋科学・海洋総合コース ①　基本的な５種類のロープワークを習得している生徒の割合 90%以上を目指す。 ②　四国大会で最優秀賞をとり，全国大会出場を目指す。	・海洋科学・海洋総合コース （評価指標による達成度） ①　基本的な５種類のロープワークを習得している生徒の割合 93 %であった。 ②　水産・海洋系高校産業教育意見体験発表会四国地区大会最優秀賞，全国大会奨励賞，水産・海洋系高校生徒研究発表会四国地区大会最優秀賞，全国大会奨励賞。 （活動計画の実施状況） ①　実習で繰り返し練習を行い，ロープワークの技術を身につけさせるようにした。 ②　意見体験発表会および生徒研究発表会において，四国大会最優秀賞を受賞し全国大会に出場することができた。	・海洋科学・海洋総合コース （達成度） Ａ （所見） ①　十分目標が達成できなかった。 ②　全国大会にも出場し，目標を達成することができた。	・海洋科学・海洋総合コース ①　繰り返し練習を行い，最低限必要なロープワークは確実に習得させていきたい。 ②　全国大会に出場することはできたが，全国大会で入賞できるように生徒のプレゼンテーション能力を高めていきたい。	・海洋科学・海洋総合コース ①　繰り返し練習し，素早く確実にロープを結ぶ技術を身に付けさせていきたい。 ②　他校の発表を参考にしながら，良い点を指導に取り入れていきたい。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
27	家庭・地域等との連携・貢献 ①　保護者への連絡・学校の情報提供を，文書とホームページへのアップの両方で行う。	①　シャトル便の積極的な活用を図り，家庭との連携を密にするとともに，生徒の社会規範確立を目指す。また，ＰＴＡ活動への積極的な参画を進め，保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。 （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	①　生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ②　体育祭や文化祭のＰＴＡ活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする。 ③　学校と家庭との連携を密にし，ホームページでの行事参加の呼びかけをする。 ④　ＰＴＡ役員と生徒代表の意見交換会を設け，保護者と生徒の意思疎通を図る。	①　保護者・教員参加のもと学校行事関係のＰＴＡ役員会を２回以上実施する。 ②　体育祭・文化祭実行委員会を開催し，役員の参加 50 ％以上を目標にする。 ③　文化祭・体育祭の保護者向け案内をホームページにアップする。毎月初めに保護者向けの各種案内を確認できるように，月末までにホームページの更新を行う。 ④　６月に学校祭等について意見交換会を実施する。	（評価指標による達成度） ＰＴＡ役員会は４回開催。役員の参加率が 70 ％に向上した。 （活動計画の実施状況） 本校のＰＴＡ活動が評価され文部科学大臣表彰を受けた。 昨年度に引き続き，活発なＰＴＡ活動を行っている。 生徒会担当教員と打ち合わせを行うなど，文化祭において支援活動を実施した。	（達成度） Ａ （所見） 毎年のＰＴＡ活動に加え，10 周年記念事業の実行委員会にも参加していただき，さらなる支援をいただくことができた。	①　ＰＴＡによる積極的な役員会の運営が行われた。 ②　体育祭・文化祭への積極的な参加が見られた。 ③　連絡文書が中心となり，ホームページへの掲載ができなかった。 ④　意見交換会は開催できなかったが，生徒会担当教諭と打ち合わせができた。	①　役員会はできるだけ保護者の負担とならないように内容を厳選して開催する。 ②　引き続き役員会への参加を呼び掛ける。 ③　ホームページだけでなくメールやＳＮＳをもっと活用する。 ④　体育祭・文化祭以外でも生徒会と連携を図る。
28	②　各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう，システムを確立する。	②　積極的な情報発信・広報活動を行い，地域と密接に連携，貢献できる学校づくりに努める。 （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	①　地域・大学等と連携した事業を積極的に実施する。 ②　本校の活動を積極的に広報する。	①　地域社会，小学校，大学で出前授業を実施する。 ②　新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。	（評価指標による達成度） ①　ＳＳＨ事業を中心に活発に行われた。地域との連携については，ユネスコスクール事業によるボランティア活動も徳島ユネスコ協会と連携をとりながら行うことができた。 ②　新聞・テレビの掲載，放映が適切に行われた。 （活動計画の実施状況） ①　ユネスコスクールについては，生徒会中心に学校周辺，および地域の清掃活動や徳島ユネスコ協会主催のボランティアスタッフなど活発に行われた。 ②　新聞社の取材は 16 回，テレビ局の取材は３回，ほかにマスコミへの資料提供も 13 回実施され，広報活動が効果的に行われた。	（達成度） Ｂ （所見） ユネスコスクールについてはさらに組織作りを進める必要があるが，ＳＳＨ事業の取組，マスコミ等での広報活動は積極的に行うことができた。	①　地域や校外の団体との連携により，生徒の活動がより充実し，深みを増し，学習効果が高められた。 ②　マスコミの取材を受けることによって，より広範囲で効果的な広報活動を行うことができた。	持続的に地域・大学・企業等と連携しながら，広報活動ができるように努める。
29	③　中学校関係者	③　ホームページや中学生	①　各類やコースの特色を生か	①　体験入学参加者へのアン	（評価指標による達成度）	（達成度）	①　参加中学生の 98 ％が体	広報活動については，時

	への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に広報する。	体験入学，中学校訪問等を通して，本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施する。 （教務部・教務課） （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	し，中学生に興味・関心を持ってもらえるような実習内容を検討し，より多くの目的意識を持った中学生に受検してもらう。 （教務部・教務課） （企画部・企画広報課） ②　広報内容を吟味し，速やかな情報発信を行う。 （企画部・企画広報課） ③　中学校を訪問し，本校の教育内容・教育活動について説明し，中学校教職員に本校について理解してもらう。 （企画部・企画広報課）	ケート調査で，満足度の４段階評価が 3.6 以上とする。 ②　学校ホームページの更新回数を月３回以上とする。また，緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。 ③　近隣中学校への学校訪問を年１回以上実施する。	①　中学生体験入学参加中学生 663 名(昨年度 726 名）満足度の４段階評価は 3.8 ②　４月から１月までの更新 ４月８回，５月 21 回， ６月 15 回，７月３回， ８月６回，９月７回， 10 月 12 回，11 月 11 回， 12 月 30 回，１月 14 回， 合計 127 回 ③　６月から 11 月までの中学校進学説明会 26 校を訪問。 （活動計画の実施状況） ①　10 周年記念事業で作成した校名ロゴタイプと校商標ロゴタイプを使用してホームページをリニューアルした。	A （所見） 中学生体験入学は，内容を精選しコンパクト化することによって昨年と同等の成果を上げることができた。 オープンスクールは開催時期等について再考する必要がある。	験入学前と比べて，徳島科学技術高校について理解できたと答え，93 %が体験内容がよかったと答えている。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を達成できた。 ②　積極的な更新により，本校の取組の理解が広がっている。 ③　本校の取組が直接中学生に理解され大変有効であった。	期的な問題やコンパクト化等，より中学生が参加しやすい状況を考慮して，計画していかなければならない。